

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
1	入門シリーズ（健康管理概論） 200-01(01-02)	岡崎 龍史	講義  産業医実務研修センター  50名	6/2(火) 1/6(水)	コマ数	労働衛生3管理における健康管理の内容は、健康診断、疾病管理、保健指導、健康教育、衛生教育、職場巡視、健康の保持増進（THP）がある。この講義では特に健康診断（一般健診、特殊健診）の法令や指針を紹介し、その目的、実施時期、疾患の推移による対策の変遷について詳しく解説する。予防の概念と健康管理の方策を整理する。	
					0		
					医師会認定 単位区分		
					第1クール なし		
					第2クール 専門 1.5		
2	身体活動基準2013に基づく健康増進活動の企画・立案 200-02(01-02)	大和 浩 姜 英	参加型講義  産業医実務研修センター  30名	6/12(金) 1/18(月)	コマ数	定期健康診断の有所見率は増加の一途をたどっている。特に、メタボリックシンドロームを中心に生活習慣を見直すことによって改善が期待できる項目の有所見率の増加が目立ってきている。労働安全衛生法第69条でも、「事業者は、労働者に対する健康教育及び健康相談その他労働者の健康の保持増進を図るため必要な措置を継続的かつ計画的に講ずるように努めなければならない。」とされており、その企画・立案をするための基本を理解することは重要である。本講義では、仮想事業場における健診の集計結果をもとにグループディスカッションを行い、その職場における問題点をまず検討する。そして施設、設備等の職場環境を考慮しながら、解決するための具体的な対策について、健康増進の観点から企画・立案を行う。さらに、グループごとに発表を行うことで議論を深める。これらの作業を通して、産業保健活動における健康増進対策の進め方について学ぶことを目的とする。	
					2		
					医師会認定 単位区分		
					第1クール なし		
					第2クール 実地 3		
3	健康診断の企画・評価に必要な疫学 200-03(01-02)	石丸 知宏	講義  産業医実務研修センター  50名	6/19(金) 2/15(月)	コマ数	健康診断の各項目やその制度の意義、感度と特異度、ROC曲線などスクリーニングにおける基礎的な知識、統計的な分布や診断基準・ガイドラインに基づく判定方法などを理解する。さらに、職域における健康診断情報を用いたサーベイランスに必要な変化への気づきとその理由の推測の実際や、費用便益、費用効果を理解し、職域健康診断の適切な実施とその活用の基礎知識を得る。	
					1		
					医師会認定 単位区分		
					第1クール なし		
					第2クール 専門 1.5		
4	生物因子のリスクアセスメント 200-04(01-02)	齋藤 光正	講義  産業医実務研修センター  50名	6/22(月) 3/1(月)	コマ数	職場における生物学的リスク因子は微生物によっておきる感染症である。労働基準法施行規則第35条に「使用者が療養の費用を負担しなければならない業務上疾病」として、細菌・ウイルス等による感染症がある。新型インフルエンザ（経気道感染）やノロウイルス感染症（経口感染）のようなヒトからヒトへ伝播する感染症が労働現場に持ち込まれ、集団発生すると事業継続が困難になる恐れがある。一方、レジオネラ肺炎のようにヒトからヒトへは伝播しないが、人工水等のエアロゾル吸入で集団発生した場合は、水周りの管理責任は事業者に問われる。事業所における感染症対策は、職業関連疾患に対する法令遵守だけでなく、安全配慮義務、企業の社会的責任（CSR：Corporate Social Responsibility）、事業継続計画（BCP：Business Continuity Planning）の観点からも行わなければならない。本講座では、事業所における感染症関連の法令、感染症成立の3要因（病原体、感染経路、宿主）と対策、また労働衛生の5管理の観点からの感染症対策について理解を深める。	
					1		
					医師会認定 単位区分		
					第1クール なし		
					第2クール 専門 1.5		

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
5	放射線業務に関する健康管理 200-05 (01-02)	岡崎 龍史	参加型講義  産業医実務研修センター  30名	6/ 5 (金) 2/ 3 (水)	コマ数  1  医師会認定 単位区分  第1クール なし  第2クール 専門 1.5	放射線関連の事業所は約7千あり、そのうち民間企業は約3千存在する。労働者に対しては、労働安全衛生法電離放射線障害防止規則（電離則）に定められている特殊健康診断を年2回行わなければならない。福島原発事故後、100mSv未満の線量に被曝する労働者はどんどん増え続けている。さらに、除染作業に伴う電離則も施行された。従って、産業医は放射線の正しい知識を持ち、放射線を不適当に怖がらないようにするべきである。今回、放射線の基本、人体への影響、チェルノブイリ原発事故と福島原発事故の違い、放射線障害例、放射線管理、誤った情報、放射線リスクコミュニケーション等について説明する。	
6	非電離放射線の健康影響とその管理 200-06 (01-02)	櫻田 尚樹	参加型講義  産業医実務研修センター  30名	6/ 5 (金) 2/ 3 (水)	コマ数  1  医師会認定 単位区分  第1クール なし  第2クール 専門 1.5	非電離放射線は、電離や励起を起こさない電磁波で、紫外線、赤外線、超音波、マイクロ波、レーザー波等である。労働基準法施行規則第三十五条において、これらによる疾病については療養補償の対象となる。これらが発生する作業現場、生体への影響、対処法および基準やガイドラインについて説明する。	
7	バイオロジカルモニタリング 200-07 (01-02)	一瀬 豊日	参加型講義  産業医実務研修センター  50名	6/26 (金) 1/ 8 (金)	コマ数  1  医師会認定 単位区分  第1クール なし  第2クール 専門 1.5	日本では「有機溶剤中毒予防規則」「鉛中毒予防規則」によりバイオロジカルモニタリングが健康診断で義務付けられている。労働者の化学物質曝露による健康障害を防止するためのバイオロジカルモニタリングを行う意義は非常に高い。多くの事業所で測定は外部機関に委託している。このため、正しい測定の実施、適切な評価のためには、バイオロジカルモニタリングの原理、測定前準備の注意事項、結果の解釈および評価方法が十分理解できてなければ無駄な投資となり、また適切な措置をとることはできない。本講義を通じてバイオロジカルモニタリングの適切な実施、評価ができるようになることを目的とする。	
8	海外派遣労働者の健康管理 200-08 (01-02)	清水 少一	講義  産業医実務研修センター  50名	7/17 (金) 1/29 (金)	コマ数  1  医師会認定 単位区分  第1クール なし  第2クール 専門 1.5	労働者の海外派遣に伴う健康問題は、生活習慣病、メンタルヘルス、感染症に大別される。それらの概要および派遣前教育を含めた予防方法、利用可能なリソースについて解説すると共に、法に規定される海外派遣前後の健康診断の概要とその結果の解釈および実際の運用についても概説する。また派遣中に実際に発生し得る健康問題への対処について、事例を踏まえ検討する。	

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
9	脳血管疾患に対する両立支援 200-09(01-02)	佐伯 覚	講義  産業医実務研修センター  50名	6/15 (月) 2/ 8 (月)	コマ数	障害者の社会参加・就労は重要なリハビリテーションの目標であり、ノーマライゼーションの理念を具現化するものである。わが国の障害者施策は、障害者雇用促進法に基づいて進められており、最近の改正により新たな段階に移行した。身体障害者の就労状況は増加傾向にあるが、障害者の重度化・高齢化、非正規雇用などの労働態様の変化、急激な医療環境の変化の影響を受けている。特に、脳血管疾患を有する中途障害者の職場復帰には多くの要因を考慮する必要がある、医療サイドと産業保健サイドとの調整による適正配置と両立支援が必要である。本講義においては、厚労省が公表した「事業場における治療と職業生活の両立支援のためのガイドライン」における脳血管疾患に対する留意事項等について概説する。	
					1		
					医師会認定 単位区分		
					第1クール なし 第2クール 専門 1.5		
10	VDT作業の健康管理 200-10(01-02)	松下 五佳	講義  産業医実務研修センター  50名	7/27 (月) 3/ 3 (水)	コマ数	2019年に公表された「情報機器作業における労働衛生管理のためのガイドライン」の内容を踏まえ、VDT作業の健康影響と対策や健康管理について講義を行う。	
					1		
					医師会認定 単位区分		
					第1クール なし 第2クール 専門 1.5		
11	上肢障害の評価と対策 200-11(01-02)	筒井 隆夫	参加型講義  産業医実務研修センター  20名	6/25 (木) 1/28 (木)	コマ数	上肢障害は、ライン作業などの繰り返し作業、VDT作業などの長時間の同一姿勢などで起きる、頸から肩、上肢の筋骨格系障害である。上肢障害の疾患概念と診断方法、その対策について、自動車組立工場における事例を提示しながら講義を進める。	
					1		
					医師会認定 単位区分		
					第1クール なし 第2クール 専門 1.5		
12	健診事後の保健指導 200-12(01-02)	八谷 百合子	講義 ロールプレイ  産業医実務研修センター  20名	7/22 (水) 2/19 (金)	コマ数	平成20年4月より「特定健康診査・特定保健指導」が開始された。特定保健指導は、内臓脂肪型肥満に着目し、その要因となっている生活習慣を改善するための保健指導を行うことを目的としている。特定保健指導は、対象者が自ら生活習慣における課題を認識して行動変容と自己管理を行うとともに、健康的な生活を維持することを通じて、糖尿病等の生活習慣病を予防することを支援するものである。本講義では、特定健康診査の結果に基づく効果的な保健指導の行い方について概説する。対象者と信頼関係を築き、対象者に気付きや行動変容を起こさせるような具体的な指導方法について実習を通して学ぶ。	
					2		
					医師会認定 単位区分		
					第1クール なし 第2クール 実地 3		

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
13	禁煙指導の実際 200-13(01-02)	八 谷 百合子	講義 ロールプレイ  産業医実務研修センター  20名	6/11 (木) 1/21 (木)	コマ数	本講義では、プロチャスカの行動変容の理論に基づく効果的な禁煙指導について概説する。また、実践を通して効果的な禁煙指導を体得する。実習内容は、心理的依存に対する喫煙者のステージに合わせた指導とニコチン依存に対する代替医療に基づく指導である。	
					2		
					医師会認定 単位区分		
					第1クール なし		
					第2クール 実地 3		
14	睡眠と労働衛生 200-14	加 藤 憲 忠	講義  産業医実務研修センター  50名	1/22 (金)	コマ数	現在、職域では「メンタルヘルス不調」、「過重労働」、「自動車事故」等が重要な課題となっている。これらは企業の本来の目的である「労働」と密接に関連し、人事労務管理・安全管理の問題が混在していることも多い。これらの問題に対して、医師である産業医が「現実的」且つ「有効」なアプローチをするためには、これらの課題と密接に関連し、且つ、扱いやすい「睡眠」に焦点を当てた対策を行うことが有用である。これらの対策は、プライマリ・ケアの外來を受診した勤労者世代の診療にも役立つ。今回の研修では、「睡眠」とくに、「不眠」、「睡眠不足」、「睡眠時無呼吸症候群」に焦点を当てて、外來診療や産業医の面接に役立つ知識をお伝えしたい。	
					1		
					医師会認定 単位区分		
					第1クール なし		
					第2クール 専門 1.5		
15	ヘルスリテラシーと健康教育 200-15(01-02)	江 口 泰 正	講義  産業医実務研修センター  50名	7/28 (火) 2/ 2 (火)	コマ数	「良好な健康状態の維持、増進のために必要となる情報にアクセスし、理解し、活用する個人の意欲や能力を決定づける認知と社会的スキル (Nutbeam 1998)」と言える「ヘルスリテラシー」が近年、医療や保健、教育等の分野で注目されてきている。厚生労働省が2015年に発表した「保健医療2035」の中でもヘルスリテラシーの言葉が使われている。ヘルスリテラシーが不十分だと様々な健康課題が増加し、また高めていくことで人々の豊かな生活へ結びつけていくことが可能となる。しかしながら、ヘルスリテラシーについて理解している人はまだ決して十分とは言えない。本講義では、この新しくパワフルなキーワードとしてのヘルスリテラシーについて、その定義や要素分類、評価法について、そして健康教育やヘルスプロモーションとの関連性等について解説する。	
					1		
					医師会認定 単位区分		
					第1クール なし		
					第2クール 専門 1.5		
16	健康危機管理対処の基本 200-16	箱 崎 幸 也	参加型講義  産業医実務研修センター  50名	6/12 (金)	コマ数	多数傷病者発生や化学災害などが起こるタイミングやその規模の事前予測は困難であるが、現実的なリスク評価を基に柔軟性のある対処計画が被害を最小限にする。初動対処としては、(1) 計画立案と責任者の明確化・指揮権の確立、(2) 状況把握から情報収集・共有化、(3) 事前計画の実行決定、(4) 初期評価と災害認定、(5) スタッフの安全確保・除染、(6) ゾーニング実施による人員・施設の安全確保、(7) トリアージ・応急処置、(8) 原因物質のための検知・同定、(9) 災害後の復興計画、(10) 教育訓練による評価・再検討、である。大規模災害や工場などでの災害 (NBCテロ含む) 対処の危機管理は、教育や訓練を定期的・継続的に実施し、その評価にて行動計画の見直しにより実践的な計画の再構築を行うことが必須である。多くの災害事例を紹介し、さらに健康危機管理の基になるリスクコミュニケーションについても講義を実施する。	
					2		
					医師会認定 単位区分		
					第1クール なし		
					第2クール 専門 3		

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
17	メタボリックシンドロームと運動指導 200-17(01-02)	道下竜馬	講義  産業医実務研修センター  50名	6/15(月) 1/25(月)	コマ数	近年、わが国において、生活習慣病対策が重要な課題となっている。生活習慣病を予防するためには、食事や休養のあり方はもとより継続して運動を実施することが重要である。運動指導を実施する際にもその指導スキルは重要であり、運動だけではなく日常生活での身体活動量を増やすことから始めていくなどの工夫も行われている。生活習慣病の予備群としてのメタボリックシンドロームの解説とともに、今後さらに産業保健活動を行っていく上で必要になっていくであろうヘルスプロモーションに関する知識やスキルについて解説していく。	
					2		
					医師会認定 単位区分		
					第1クール なし 第2クール 専門 3		
18	外国人労働者の健康管理 200-18(01-02)	内野文吾	講義  産業医実務研修センター  50名	6/9(火) 2/9(火)	コマ数	近年、日本で就労する外国人は増加の一途をたどっており、厚生労働省が発表した2019年10月末現在での外国人労働者数は約166万人で、7年連続での過去最高数の更新となった。労働力の不足が大きな課題となりつつある経済状況を背景に、今後もこの傾向は続く予想される。 外国人労働者の増加に伴い、外国人が産業保健サービスの対象者となる機会も確実に増加しており、産業保健スタッフは日本人と同様に労働衛生管理を行うことを求められているが、実務上は多くの課題が存在する。 本講義では、まず日本における外国人労働者の現状と実態について整理し、就労そのものに課題があることを紹介する。次に、当社での経験を元に、事例を交え産業保健上の課題と取り組みについて紹介し、産業医として心得ておきたい事項をまとめていく。	
					1		
					医師会認定 単位区分		
					第1クール なし 第2クール 専門 1.5		
19	健康診断・事後措置 200-19(01-02)	田口要人	ケーススタディ個別 ケース  産業医実務研修センター  20名	8/4(火) 3/9(火)	コマ数	産業医による健康診断結果判定は、個々の項目についての検査値のみを評価するのではなく、職域周辺の情報（経年的データの推移、自覚症状、業務歴・作業態様、生活歴・家族歴などの情報）も含めて総合的になされ、それらの結果が事後措置に反映される。本講義では、一般健康診断における結果判定の意義や産業医が踏まえるべき留意点を学び、更には判定から事後措置までの概論と模擬事例の判定を行うことを通して、健康診断結果判定の考え方を理解することを目的とする。	
					2		
					医師会認定 単位区分		
					第1クール なし 第2クール 実地 3		
20	有機溶剤対策の実際 200-20(01-02)	喜多村 紘子	講義  産業医実務研修センター  50名	6/17(水) 3/11(木)	コマ数	有機溶剤は、製造業や建設現場などで広く一般的に使用されている化学物質であるが、管理や使用の方法を誤ると、健康障害を引き起こすほか、急性中毒事故によって死者が出る事も稀ではない。本講座では、有機溶剤の管理における法的な根拠や必要な対応、有機溶剤の性質や人体への影響、有機溶剤の管理方法や健康障害の予防策などを理解する。また、有機溶剤の有害性に関する情報を自力で収集・評価し、産業医として適切な助言・指導が出来ることを目的とする。	
					1		
					医師会認定 単位区分		
					第1クール なし 第2クール 専門 1.5		

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
21	有機溶剤特殊健診の模擬判定実習 200-21 (01-02)	喜多村 紘子	参加型講義  産業医実務研修センター  20名	6/17 (水) 3/11 (木)	コマ数  1  医師会認定 単位区分  第1クール なし 第2クール 実地 1.5	産業の現場には、人体に何らかの悪影響を及ぼし得る化学物質が多数存在する。これらの有害物質や有害業務による健康影響を予防することは、産業保健活動上の優先度が高く、多くの企業において3管理の観点から対策が実施されている。健康管理の面から実施されている事のひとつに特殊健康診断があり、当該要因による健康影響の確認がなされているが、その実施は言うまでもなく、判定や事後措置までが適切になされることが重要となる。判定や事後措置は産業医にとって重要な職務であるが、業務起因性や関連性の評価も行い、適切な判断をすることが求められる。本講義では有機溶剤健康診断の教材を用いて実習を行う事で理解を深め、特殊健康診断の評価方法や留意点について学ぶことを目的とする。	
22	職業性皮膚障害 200-22 (01-02)	山本 佳世	講義  産業医実務研修センター  50名	7/20 (月) 3/1 (月)	コマ数  1  医師会認定 単位区分  第1クール なし 第2クール 専門 1.5	職業性皮膚障害は多岐に渡り、その頻度も高い。接触皮膚炎から皮膚癌まで、実際の臨床症例を提示しながら、作業環境との関連について解説する。	
23	有害業務による歯科異常と生活習慣病としての歯科疾患 200-23 (01-02)	平島 惣一	講義  産業医実務研修センター  30名	7/31 (金) 2/25 (木)	コマ数  1  医師会認定 単位区分  第1クール なし 第2クール 専門 1.5	有害業務による歯科異常について概説するとともに、歯周病など生活習慣病としての歯科疾患について学習する。次の3点に講義の重点を置く。1. 歯牙酸蝕症の病態と診断、2. ウ蝕の成因と予防、3. 歯周病の成因と予防	
24	交替勤務者の就業配慮 200-24 (01-02)	丸山 崇	参加型講義  産業医実務研修センター  50名	6/16 (火) 3/10 (水)	コマ数  1  医師会認定 単位区分  第1クール なし 第2クール 専門 1.5	交替勤務は従来より、鉄鋼業や病院などで見られる勤務形態である。近年は、情報化社会を背景にIT産業や食品加工業などでも導入する例が増えており、多くの業種で交替勤務が見られる。一方、労働者の視点からみると交替勤務による健康影響を懸念する声も聞かれる。本講座では、実際の事例を用いて、交替勤務の視点から医学的適性評価の考え方を理解すると同時に、事業所内で行われる就業配慮について学ぶ。 【使用教材】・事例から学ぶ産業保健の実務(第1・2・3集) 大久保利晃 監修・産業保健事例研究会著 労働調査会・産業医のための事例でみる事業者が行う就業上の措置 厚生労働省労働衛生課 監修 産業医学振興財団	

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
25	特殊健康診断についての概説 200-25 (01-02)	喜多村 紘子	講義  産業医実務研修センター  50名	6/30 (火) 2/24 (水)	コマ数  1  医師会認定 単位区分 第1クール なし 第2クール 更新 1.5	労働環境には、さまざまな有害要因が存在する。有害因子に曝露する恐れがある場合、健康管理の一環として実施されているのが特殊健康診断である。産業医は、特殊健康診断の結果を判定する際には有害業務との関連性（業務起因性）を判断する必要があり、有所見の意義、作業環境測定結果や職場の状況、個人曝露評価などを総合した考察が出来なければならない。本講座では、特殊健康診断の位置づけや特徴、一般健康診断との比較、業務起因性の推定方法論、各特殊健康診断の各論を概説し、特殊健康診断の全体像と考え方を理解する事を目的とする。	
26	腰痛健診の概要と実際 200-26 (01-02)	武田 俊	参加型講義  産業医実務研修センター  20名	2/26 (金)	コマ数  1  医師会認定 単位区分 第1クール なし 第2クール 専門 1.5	業務上疾病（休業4日以上）における災害性腰痛の発生件数は年間約5,000件に達し、業務上負傷疾病の約8割を占めている。そのため「職場における腰痛予防対策指針」が策定され、行政指導（通達）に基づく特殊健診として、腰痛健診が重量物取り扱い作業等々に実施されている。本講義では、腰痛健診の法的位置づけ、健診の対象業務、ならびに健診の体系を概説し、実際の健診結果票を元に症状や所見のポイントを解説する。また腰痛対策全般において腰痛健診はその一部に過ぎず、むしろ作業管理および健診からの事後措置が重要である。腰痛の最近の知見・実際の作業場所事例および裁判例などを紹介し、腰痛に対しては総合的な対策が重要であることを理解する。	
27	治療と仕事の両立支援 200-27 (01-02)	立石 清一郎	講義 実習  産業医実務研修センター  50名	6/18 (木) 1/19 (火)	コマ数  2  医師会認定 単位区分 第1クール なし 第2クール 実地 3	病気に対する企業の対応は健康状態と職業上のマッチングを検討する職務適正の判断を行うことが一般的であった。しかしながら、超高齢社会に突入した我が国においては病気などの多少の働きにくさを持った労働者であっても本人を治療を受けながらも仕事ができる環境を支援することは産業医にとって重要なスキルになりつつある。本実習においては理論的背景とともに産業医の在り方について受講者とともに議論する。	
28	産業医学と呼吸器疾患 200-28 (01-02)	矢寺 和博	講義  産業医実務研修センター  50名	6/29 (月) 1/25 (月)	コマ数  1  医師会認定 単位区分 第1クール なし 第2クール 専門 1.5	呼吸器は外界との接触の場として皮膚などとともに有害物質にばく露されやすい臓器である。歴史的にも産業医学の父と呼ばれる16世紀のイタリアのパドヴァ大学ペルナルディーノ・ラマツィーニの著書である「働く人々の病」の中でも、非常に多くの職業と関連した呼吸器疾患が記載されており、古くから職業・労働環境と呼吸器疾患の関係は認識されてきた。現在でもじん肺などを代表に職業性喘息や肺癌、悪性胸膜中皮腫などがあり、職歴や職場環境の正確な把握は呼吸器疾患の正確な診断には非常に重要な要素の一つである。本講義では、外界と最も密に接する内臓器である呼吸器という側面から産業医学や環境との関連について具体例を挙げながら概説する。	

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
29	熱中症予防対策 200-29 (01-02)	堀江正知	講義  産業医実務研修センター  30名	7/9 (木) 1/28 (木)	コマ数  1  医師会認定 単位区分 第1クール なし 第2クール 専門 1.5	熱中症は、熱傷を除く暑熱による健康障害の総称であり、熱虚脱、熱けいれん、熱射病などが含まれる。日本の労働災害統計においては、熱中症による死亡者が建設業などを中心に毎年20人前後発生しており、重要な課題となっている。本講義では、熱中症の発生に関係する温熱生理、職場における温熱環境の指標と基準、実施可能な労働衛生対策について紹介する。また、産業医活動における熱中症予防対策の要点と課題について検討する。	
30	積極的傾聴法 200-30 (01-02)	真船浩介	学内実習  産業医実務研修センター  20名	7/7 (火) 3/1 (月)	コマ数  2  医師会認定 単位区分 第1クール なし 第2クール 実地 3	「労働者の心の健康の保持増進のための指針」において推進されている「ラインによるケア」では、相談対応が管理監督者の役割の一つとして位置づけられ、話の聴き方や情報提供及び助言の方法等、管理監督者を対象とした相談対応のための教育研修も重視されている。代表的な研修内容の一つである積極的傾聴法を職域に幅広く定着させるには、産業保健スタッフが自ら指導できることが望ましい。本講義は、積極的傾聴法の目的を概説し、発見的体験学習法による実習を行い、管理監督者教育として指導する際のポイントや実践例を紹介する。	
31	メンタルヘルス事例検討 200-31 (01-02)	学内講師	参加型講義  産業医実務研修センター  20名	2/18 (木)	コマ数  1  医師会認定 単位区分 第1クール なし 第2クール 専門 1.5	職場で実際にみられるメンタルヘルス不調例を提示し、その標準的な対応（本人、職場関係者への支援、職場環境、制度への働きかけ）について、手順、留意点などを解説する。また、処遇困難例や最近増加している問題についても取り上げ、産業保健スタッフとしての関わり方をディスカッションしてもらう。	
32	職業性ストレスの評価法とストレスチェックの実際 200-32 (01-02)	真船浩介	講義  産業医実務研修センター  20名	6/18 (木) 1/8 (金)	コマ数  1  医師会認定 単位区分 第1クール なし 第2クール 専門 1.5	職業性ストレスの主要な評価方法である労働者を対象とした質問紙調査について、主要な理論モデルに基づく評価方法を紹介し、ストレスチェック制度（心理的な負担の程度を把握するための検査）における活用方法と調査法の留意点を解説する。	



NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
33	精神障害の労災問題 200-33 (01-02)	廣 尚 典 学 内 講 師	講義  産業医実務研修センター  30名	8/ 3 (月) 2/26 (金)	コマ数  1  医師会認定 単位区分  第1クール なし 第2クール 専門 1.5	2011年12月、「心理的負荷による精神障害の認定基準」が示された。1999年「心理的負荷による精神障害等に係る業務上外の判断指針」が公表されて以降、精神障害の労災認定例は増加の一途を辿っており、産業保健スタッフとしても、その動向や考え方を知っておくことは、実務上極めて重要となっている。本講座では、精神障害の労災認定について、これらの変遷を辿るとともに、新しい基準のポイントを解説し、それを産業保健活動にどのように生かすべきかを考察する。	
34	精神疾患と健康管理：産業医に必要な疾病理解 200-35 (01-02)	吉 村 玲 児	講義  産業医実務研修センター  50名	7/14 (火) 1/12 (火)	コマ数  1  医師会認定 単位区分  第1クール なし 第2クール 専門 1.5	うつ病は遺伝と環境の相互作用により発症する。幼少時代の虐待体験、最近の喪失体験、慢性ストレス状態はうつ病の発症リスクを高める。つまり遺伝的要因と環境的要因の相互作用により発症する。また、環境要因によりうつ病の危険遺伝子の発現が促進される。うつ病と神経症傾向の関与も証明されている。うつ病の原因は不明であるが、モノアミン仮説、神経可塑性仮説、サイトカイン仮説などが提唱されている。抗うつ剤が未投与のうつ病患者の海馬は健常者と比較して有意に体積が委縮している。脳梁膝下前頭皮質から大脳辺系には多くの神経連絡経路があり、この経路がうつ病の臨床症状と関連する。うつ状態評価には自記式評価尺度のみでは不十分で、必ず客観的評価尺度により確かめる必要がある。自殺リスクは必ず評価しておく必要があり、コロンビア自殺尺度(C-SSRS)を用いることが推奨される。うつ病治療はその程度により精神療法や薬物療法(抗うつ薬)が選択される。軽傷うつ病では認知行動療法や支持的精神療法などの精神療法や運動療法が推奨され、中等症-重症うつ病では薬物療法が併用される。	
35	精神疾患と健康管理：職場不適応(パーソナリティ障害、発達障害、アルコール依存症) 200-37 (01-02)	新 開 隆 弘	講義  産業医実務研修センター  50名	6/ 3 (水) 2/ 3 (水)	コマ数  1  医師会認定 単位区分  第1クール なし 第2クール 専門 1.5	精神疾患を背景とする職場不適応について、特にパーソナリティ障害、発達障害、アルコール依存症について学ぶ。それぞれの疾患の基本概念を把握し、初期対応や専門家への紹介、主治医との連携、職場での処遇などについて、産業医として基本的な心構えを習得する。	
36	メンタルヘルス：事業場外資源によるケア 200-38 (01-02)	市 川 佳 居	講義 実習  産業医実務研修センター  30名	7/16 (木) 1/ 7 (木)	コマ数  2  医師会認定 単位区分  第1クール なし 第2クール 専門 3	職場におけるメンタルヘルス対策において、EAP (Employee Assistance Program=従業員支援プログラム)の役割や取り組みについて概説する。産業医としてEAPを導入する際の手順、EAPベンダーの品質管理、EAPとの連携方法、その他EAPの活用方法を、事例を入れながら解説する。	

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
37	メンタルヘルス：復職支援とケーススタディⅠ 200-39 (01-02)	廣 尚 典 学 内 講 師	講義  産業医実務研修センター  30名	7/13 (月) 1/18 (月)	コマ数	職場のメンタルヘルス対策における職場復帰支援は特に産業医に関わりが求められる重要な産業保健活動のひとつである。ここでは、精神医学の基礎知識に加え、人事労務領域の諸制度や管理監督者の役割、主治医や家族との連携などに関する理解が必要となる。本講座では、職場復帰支援の基本的な取り組み方を、行政の動向などを交えて概説する。ケーススタディでは、現場で遭遇しがちな事例を取り上げ、実践的な知識・技術の習得を目指す。	
					1		
					医師会認定 単位区分		
					第1クール なし		
					第2クール 専門 1.5		
38	メンタルヘルス：復職支援とケーススタディⅡ 200-40 (01-02)	学 内 講 師	ケーススタディ個別 ケース  産業医実務研修センター  30名	1/18 (月)	コマ数	職場のメンタルヘルス対策における職場復帰支援は特に産業医に関わりが求められる重要な産業保健活動のひとつである。ここでは、精神医学の基礎知識に加え、人事労務領域の諸制度や管理監督者の役割、主治医や家族との連携などに関する理解が必要となる。本講座では、職場復帰支援の基本的な取り組み方を、行政の動向などを交えて概説する。ケーススタディでは、現場で遭遇しがちな事例を取り上げ、実践的な知識・技術の習得を目指す。	
					1		
					医師会認定 単位区分		
					第1クール なし		
					第2クール 専門 1.5		
39	特殊健康診断の実際 200-41 (01-01)	坂 本 史 彦	講義  産業医実務研修センター  30名	7/29 (水)	コマ数	事業場における特殊健康診断の実施については、各企業によって実施方法は様々である。企業によっては、企業グループ内に労働衛生機関を持ち、定期健康診断や特殊健康診断を実施することにより、健康診断の実施や判定の精度を高める工夫をしている所も存在する。このカリキュラムでは、ある企業グループに属する労働衛生機関から講師を招き、特殊健康診断の内容、実施方法、判定について解説していただく。また、実際の診察手技についても実習する。	
					1		
					医師会認定 単位区分		
					第1クール なし		
					第2クール 専門 1.5		
40	職場における喫煙対策 200-42 (01-02)	大 和 浩	講義  産業医実務研修センター  50名	6/ 2 (火) 1/ 6 (水)	コマ数	労働安全衛生行政における喫煙対策の変遷、労働衛生の三管理としての喫煙対策について解説をおこなう。 ・作業環境管理、快適職場＝喫煙室では受動喫煙の防止は不可能、建物内～敷地内全面禁煙による受動喫煙と三次喫煙の防止 ・健康管理＝禁煙治療への誘導 ・作業管理＝勤務中の喫煙禁止による作業密度の公平性 また、安全衛生委員会で説明すべき内容（能動喫煙と受動喫煙による健康障害の大きさ）、「たばこの規制に関する世界保健機関枠組条約(2005年)」と「改正健康増進法(2018年)」を根拠として推進する職場の喫煙対策により得られる喫煙率の低減効果などについて解説する。 <a href="http://www.tobacco-control.jp/">http://www.tobacco-control.jp/</a>	
					1		
					医師会認定 単位区分		
					第1クール なし		
					第2クール 専門 1.5		

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
41	産業医に必要な睡眠学 200-43	新島 邦行	講義  産業医実務研修センター  50名	6/8(月)	コマ数	睡眠(休養)は、運動・食事(栄養)と並ぶ、健康維持・増進のための3大要素の一つである。近年、睡眠に関するさまざまな研究から、睡眠不足や睡眠障害の健康や仕事への影響が明らかにされてきた。労働者の健康管理においても、以前から指摘されていた交替勤務者の睡眠障害だけでなく、過重労働に伴う睡眠不足や睡眠時無呼吸症候群のような睡眠障害を生じる疾患への対応も重要視されている。当講座では、先生方が産業医として現場に赴く際に必要となる知識・技能の一つとして、労働者の睡眠問題への対応を理解していただくことを目標とする。「睡眠医学の基礎」に加え、「労働者の健康管理における睡眠の重要性と睡眠障害への対応」について解説する。	
					2		
					医師会認定 単位区分		
					第1クール なし		
					第2クール 専門 3		
42	視覚障害者に対する産業保健 200-44(01-02)	高橋 広	講義  産業医実務研修センター  50名	7/21(火) 2/16(火)	コマ数	目を患うと眼科を受診して診断・治療を受けるが、職場の定期的な健診で発見されることもある。このような場合でも、見えにくくなった目で、日常生活や仕事をし続けなければならず、一人で頑張っていることが多いようである。そして、目の状態がさらに、悪化すると、病状や仕事で悩みや苦しみが大きくなり、場合によってはうつ状態に陥る。したがって、メンタルヘルスケアが大切だが、それだけでは見え方は改善しないため、その効果は限定的である。このような場合、当事者が持っている視機能を最大限に活用してQOL向上を目指すロービジョンケアが役立つ。しかし、それは眼科医療においても限られたところのみ行われており、産業保健の分野にはほとんど周知されていない。本講習では眼科でのロービジョンリハビリテーションについて実習を含め講義する。	
					2		
					医師会認定 単位区分		
					第1クール なし		
					第2クール 専門 3		
43	産業医のための循環器講義 200-45(01-02)	河野 律子	講義  産業医実務研修センター  50名	7/27(月) 3/8(月)	コマ数	国内で発生する心臓突然死数は年間73,000人にも達することが総務省消防庁データから明らかになっている。一般的には高齢者に多いが60歳代以下の就労世代にも年間約16,000人程度発生していることが判明している。一方で、職場や家庭で失神発作を来す人は多く、この中には心臓突然死の前兆としての症状である場合も含まれている。失神を来した就労者をどのように就労指導し、職場復帰させるか、あるいは心臓突然死をいかに予防するか、突然死予防のために植込み型徐細動器(ICD)治療を受けた就労者に対し、産業保健従事者にどのような点に気をつけて指導したらよいか、ペースメーカー患者とはどう違うのか、等は大きな問題となっている。心臓突然死や失神の原因は何か、就業ストレスはその発生に関与するのか、職場復帰に際し注意すべき点にはどのようなことがあるか、等の問題について講義する。	
					1		
					医師会認定 単位区分		
					第1クール なし		
					第2クール 専門 1.5		
44	職場で問題になる感染性疾患の健診、感染対策 200-46(01-02)	鈴木 克典	参加型講義  産業医実務研修センター  50名	7/31(金) 2/24(水)	コマ数	事業所における感染症発症は、我々が推進している産業安全衛生活動の現場に於いて想定される大きな危機の一つである。世界に目を向ければ、結核は3大感染症の一つであるし、国内においても、HIV感染症の蔓延に有効な対策がなされていない現状や、海外労働者の流入などによって、労働現場における結核発症のリスクは増大していると言わざるを得ない。どんなに十分な感染症対策を行っていても結核をはじめとした感染性疾患はある一定の確率で発生する。発生した感染症の2次感染を予防し、労働現場の生産性を落とさないということが産業医学に課せられた使命の一つであると考えられる。この中でも、感染症を発症した労働者の周囲の労働者の発症リスクを考え、トリアージを行う必要があり、保健所など関係機関との連携を深めていかなければならない、まさに産業医の「腕の見せ所」である。本講義では、実際の感染症発症の事案を検証することによって、産業安全衛生活動の現場における感染性疾患の位置づけ、アウトブレイク対応などを学ぶことを目的とする。	
					1		
					医師会認定 単位区分		
					第1クール なし		
					第2クール 専門 1.5		

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
45	粉じん作業者の健康管理上の課題 200-47(01-02)	森本泰夫・友永泰介	講義  産業医実務研修センター  50名	6/22 (月) 2/25 (木)	コマ数  1  医師会認定 単位区分 第1クール なし 第2クール 専門 1.5	高濃度の粉じん曝露によって生じる肺線維症「じん肺」は最も古くから知られた職業病であり、国際的には現在も代表的な職業性疾患である。従来の鉱山作業、伝統産業、重厚長大産業における曝露に加え、近年では、石綿、超硬金、ヒューム（溶接工塵）による様々な職場での肺疾患、さらにはナノマテリアルの扱ひも課題となっている。粉じん作業者の健康管理に関わる法律であるじん肺法の概要ならびにじん肺健診の現状、専門職としてスクリーニング、診断に関わる場合の考慮すべき要点について概説する。また、労災認定のプロセスを解説し、産業医あるいは臨床医としてこれに関わる場合の留意点について解説する。対象者はじん肺写真の読影ならびに職業性呼吸器疾患の症例について一定の経験がある医師が好ましいが、受講対象に応じて内容を調整する。粉じん曝露作業に起因する職業性肺疾患の発生、診断、労災補償の現状と、今後こうした作業者の健康管理に携わる場合の基本的な配慮事項について意見交換の機会を設けて理解を図る。	
46	企業内のパンデミック拡大防止の実例－問題解決における情報の重要性－ 200-48(01-02)	眞崎 義 憲	講義  産業医実務研修センター  50名	6/24 (水) 1/20 (水)	コマ数  2  医師会認定 単位区分 第1クール なし 第2クール 専門 3	2009年に発生した新型インフルエンザのような大規模感染症が発生した際、企業には事業の継続と業務上発生しうる従業員と顧客の感染拡大防止という、相反する二つのことを実現する必要に迫られる。このような事態に備えて事業主がBCP（事業継続計画）を策定する際、産業医は各事業種に応じて、各事業場での感染拡大予防が実施できるように助言することが求められる。本講座では、種々の事業所の中でもサービス提供者および受益者の双方で感染拡大を惹起しやすい教育現場での感染拡大防止の実例を通して、問題解決における情報の重要性、とくにその収集と解析、取り扱いに関して講義を行う。	
47	プレゼンティーズムと産業保健 200-49(01-02)	藤野 善 久	講義  産業医実務研修センター  50名	7/20 (月) 3/ 8 (月)	コマ数  1  医師会認定 単位区分 第1クール なし 第2クール 専門 1.5	プレゼンティーズムとは、体調不良や健康問題を抱えたまま出勤している状態を指す用語であり、近年、産業保健分野において関心を集めてきている。本講義では、プレゼンティーズムに関する研究背景や主に海外を中心に蓄積されてきた研究知見について紹介する。プレゼンティーズムには、大きく2つの研究の潮流がある。一つは、米国を中心とした労働生産性の観点から捉えたものである。もう一方は、欧州を中心としたSickness presenteeism(もしくはpresence)と称されるものがある。本講義では、この2つの研究の視点にそって知見を整理するとともに、本邦の産業保健におけるプレゼンティーズムへの取り組みに関する意義について議論したい。	
48	職場における転倒防止のための体力づくり 200-50(01-02)	江口 泰 正	講義 実習  産業医実務研修センター  50名	7/14 (火) 3/ 1 (月)	コマ数  1  医師会認定 単位区分 第1クール なし 第2クール 実地 1.5	職場における転倒は、労働災害死傷者の原因第1位を続けている。労働者の高齢化がその一因とも考えられるが、環境整備だけでこれを予防するには限界がある。「身体の機能は、適度に使うと発達し、使わなければ萎縮（退化）し、過度に使えば障害を起こす」（ウィルヘルム・ルー）という理論は、身体機能の維持、向上の重要性を示しており、環境整備のみの管理では労働者の身体機能がますます低下し、さらに転倒しやすくなるという悪循環に陥ってしまうということが理解できる。そこで本講義・実習では、転倒予防に重要な体力とその向上法について、簡単なチェック法や実際の取り組み例などを交えて紹介する。	

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
49	職場における感染症対策の実際 200-51 (01-02)	河津 雄一郎	講義  産業医実務研修センター  50名	7/ 8 (水) 1/27 (水)	コマ数  1  医師会認定 単位区分 第1クール なし 第2クール 専門 1.5	職場は、多くの社員が集団生活をする場であるため、ひとたび感染症がもちこまれると、職場全体に流行が拡がってしまう危険性がある。産業医は、集団の健康管理が仕事なので、集団感染の制圧は基本的な業務であるといえる。そこで演者の自験例を中心に、感染症対策の実際について紹介する。	
50	海外事業場での産業保健活動 200-52 (01-02)	小林 祐一	講義  産業医実務研修センター  50名	7/ 3 (金) 1/19 (火)	コマ数  2  医師会認定 単位区分 第1クール なし 第2クール 専門 3	産業医は海外事業場の産業保健活動にどのように関わることができるか。具体的な事例から、グローバル企業における産業保健の在り方と産業医の役割を学ぶ。 ①海外勤務者（日本人赴任者）の健康管理 日本人赴任者をどのようにサポートするか。健康診断及び事後措置、慢性疾患の継続治療、緊急搬送サポートなど、現地の医療機関及び医療サポートエージェントとの連携方法、海外の医療保険の種類と利用方法など。 ②感染症予防対策からパンデミック感染における事業継続計画の策定に至るまで、産業医はどのように参画するか。2020年の新型コロナウイルス対応に学ぶ。 ③労働安全衛生（産業保健）活動のパフォーマンス向上 現地の労働安全衛生管理体制づくり、現地の専門家との連携をどのように進めるか。マネジメントシステムの活用、産業医モデル、安全管理者モデルなど。	
51	妊産婦や婦人科疾患に対する職場対応 200-53 (01-02)	金城 泰幸	講義  産業医実務研修センター  50名	8/ 3 (月) 2/22 (月)	コマ数  1  医師会認定 単位区分 第1クール なし 第2クール 専門 1.5	昨今の女性就労率の上昇のため、働く女性の健康障害や妊娠出産に出会う機会が増えています。今回、妊娠出産に関わる問題や女性のライフステージに応じた健康障害について講義します。また母健カード等のコミュニケーションツールの紹介、健康診断や人間ドッグから得られる情報と婦人科疾患との関連についても触れる予定です。	
52	がん検診について産業医に有用な知識 200-54 (01-02)	伊藤 ゆり	講義  産業医実務研修センター  50名	7/10 (金) 1/22 (金)	コマ数  2  医師会認定 単位区分 第1クール なし 第2クール 専門 3	科学的根拠に基づいて有効性が評価されたがん検診を正しく実施するために、必要な基礎知識を紹介する。がん検診の有効性評価における研究デザイン、評価指標、各種バイアスについて、整理した上で、現在厚生労働省により推奨されているがん検診ガイドラインについてまとめる。がん検診を正しく実施する上で不可欠となる精度管理についても感度・特異度、発見率、要精検率、精検受診率などの評価指標について理解する。また、職域におけるがん検診における現状と課題について、概観するとともに、産業医として職域のがん検診にどう取り組んでいくかについて議論する場としたい。	

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
53	化学物質の危険性・有害性と健康影響 200-55 (01-02)	上野 晋	講義  産業医実務研修センター  50名	7/13 (月) 2/ 1 (月)	コマ数  1  医師会認定 単位区分  第1クール なし 第2クール 専門 1.5	産業現場で使用されている化学物質は60,000種類を超えているといわれている。それら化学物質に対する基本情報の入手方法、労働安全衛生法（安衛法）に基づく管理体系の現状と課題などについて説明する。また化学物質の危険性およびそれが原因となる化学災害について代表的な事例とともに概説する。さらに、化学物質の人体への侵入経路と有害性の発現機序、急性曝露あるいは慢性曝露による健康障害についての基本的な知識から代表的な曝露事例とその対応策までを概説する。	
54	電子タバコ・加熱式タバコの健康影響 200-56	櫻田 尚樹	講義  産業医実務研修センター  50名	7/13 (月) 2/22 (月)	コマ数  1  医師会認定 単位区分  第1クール なし 第2クール 専門 1.5	喫煙は予防可能な最大の健康阻害要因である。健康増進法の改正（2020年4月1日全面施行）により、事業者だけでなく国民全てにおいて「望まない受動喫煙」を防止するための取り組みが、マナーからルールへと変わった（義務化された）。一方で、近年国内では加熱式タバコをはじめとする新しいタバコ製品が広く普及してきており、これらについては長期的な疫学研究による健康影響については未だ十分明確になっていないとして、健康増進法改正においては緩和された経過措置が取られている。WHOタバコ規制枠組条約等関連する規制の動向を含めタバコ規制と健康影響について理解することを目的とする。	
55	多職種連携－産業看護職との連携を中心に－ 200-57 (01-02)	監物 友理	講義  産業医実務研修センター  50名	7/ 2 (木) 1/28 (木)	コマ数  1  医師会認定 単位区分  第1クール なし 第2クール 専門 1.5	近年、働き方改革、ダイバーシティの推進、定年の延長、といった様々なキーワードを元に職場環境が多様化し、産業保健スタッフに求められる役割も拡大している。そのため、産業医のみならず、多職種で連携・協働しながら、社員や組織における健康上の課題への取り組むことが求められている。この講義では、産業保健活動を担う各職種の役割を知り、それぞれの強みを生かして連携強化につながるよう、特に産業看護職との連携を中心に説明する。	
56	行動科学を応用した職場環境デザインによる健康づくり 200-99	近藤 尚己	講義  産業医実務研修センター  50名	2/ 5 (金)	コマ数  2  医師会認定 単位区分  第1クール なし 第2クール 専門 3	人は常に合理的な判断に基づき日々の決定を下しているわけではない。そのため「健康のために〇〇をしましょう」といった、合理的な判断に基づき行動することを促すメッセージが役に立たないことが多々ある。近年、行動科学、とりわけナッジ(nudge)と呼ばれる人の行動の不合理性に着目した行動経済学のアプローチが注目されている。ナッジは自然と健康的な行動をとれるような 職場環境のデザインに応用できる。事例とともに、そのような取り組みのあり方を解説する。	